



日本共産党

おはら きいちろう
小原 喜一郎

Q (続)小さくてもキラッと光る 元気なまち蟹江を目指す提案

鈴木総務部次長

A まちのことが分かるガイドブックを発行していきたい。



▲「便利帳」で、まちの魅力アップだ

問 ナフコが閉鎖したが、引き続きショッピングセンターとして残すよう努力してもらいたい。
横江町長 地域の利便性を図るために、誘致策なども考えていきたい。

問 既に提案の内容に新たに地域医療を加え、「医療・福祉と観光のまちかにえ」とする。医療の充実で財源も増え、まちの魅力も良くなるのでは。
能島健康推進課長 健診の結果を放置し、その結果が合併症を併発し、医療費が膨らんでいる。それを減らすためにも、住民への健康に対する意識づけが重要なので、「かにえ活き生きプラン21」を推進し、日常生活の中で健康管理への行動変容を促したい。

問 ひと目でまちのことがすべて分かる「便利帳」をつくれ。これでまちの魅力アップを図れ。
鈴木総務部次長 他の自治体を参考にし、発行していきたい。

問 厚労省は自治体が行うことについて干渉しないと明言し、諸機関に連絡したことを承知か。
上田民生部次長 厚生労働省保険局長が、各地方の厚生支局長にあてた文書である。その

ため、市町村には通知されていない。
問 国保財政は悪くない。高く払えない国保税。一人1万円引き下げよ。
上田民生部次長 1万円引き下げると、1億円必要である。医療費



▲国保税の引き下げは、できないか

問 低所得者に対する減税について検討すべきだ。また、滞納者に対する短期保険証を自宅に届けるよう考慮せよ。(厚労省通知)
齋藤民生部長 保険税の減免の規定により、軽減を行っている。また、軽減の拡大策を6月議会に提案している。短期保険証の交付は、その通知に沿い、適正に対応している。

Q 小原喜一郎議員② 国保税の一人1万円減税と諸問題を問う

A 上田民生部次長

減税は、慎重に考えたい。

の増大や診療報酬の改正、保険税の軽減割合の拡大などでお金が必要になる。これ以上の減税は、慎重に考えたい。